

独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第15回
議事要旨

1. 日 時 平成16年2月26日(木) 14:00~16:00
2. 場 所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐委員長, 水谷副委員長, 相澤委員, 阿辻委員, 倉島委員, 神津委員,
古賀委員, 小森委員, 柴田委員, 関根委員, 田中委員, 中山委員, 松岡委員,
山崎委員

4. 会議の概要

(1) 第3回中間発表について

第3回中間発表の対象語の決定及び提案形式の検討を行った。

(2) 第4回提案の語彙選定について

語彙選定の基本方針について検討を行った。

(3) その他

第3回・第4回「外来語」言い換え提案作業日程について

イ. 平成16年4月下旬に第3回中間発表

ロ. 平成16年7月中旬に第3回最終発表

ハ. 平成16年11月中旬に第4回中間発表

ニ. 平成17年3月中下旬に第4回最終発表

国際シンポジウム - 世界の 外来語 の諸相 - の開催について

5. 会議での主な意見

提案の形式として、個々の外来語について、「言い換え語」のほかに「説明付与」の例も示すものと、従来のように「言い換え語」だけで「説明付与」の例を示さないものとの提案されたが、「説明付与」の例も示すものは、そのために掲げる用例が一つ増えることになり、しかも、「言い換え語」を示すものと並列して提示されることになるので、利用者にとっては非常に分かりにくいと思う。

「説明付与」の例を示す提案形式は、場合によっては外来語そのものを残す方向というふうを受け取られるおそれがあるので、個々の語に対して「説明付与」は行わずに、全体の使い方を説明するところで、こういう使い方もあるという例示をする方がよい。

外来語を扱う際の基本的な姿勢として、外来語の表している内容が日本語の中に取り入れるべき重要性をもっているものなのかどうか、一定の判断が必要になってくると思われる。そのためには、今後の日本語の在り方、あるべき姿についての十分な認識と広い視野、展望を持たなければならない。

アルファベット略語は、それに特有の問題がいろいろあるので、当面はカタカナ外来語と一緒に扱うのは避けた方がよい。いずれまとめて扱うべきであろう。

アメリカでは「リテラシー」を「インフォメーションリテラシー」ということで使われていると思われるが、「リテラシー」の言い換え語が「活用能力」だけでよいのか調査する必要がある。

現在、我々は個々の外来語をある程度固定した用法で使っているが、原語である英語の世界では、それとは別に用法が刻々と変化していることも必要に応じて伝える必要がある。

「ハザードマップ」は、「防災マップ」「避難マップ」という言い方が行政機関の中で出始めているが、その中身がどんどん変わってきているので、その点を説明した上で、現時点での言い換え語を提案することが考えられる。

第3回の提案から除くことになった語も、それぞれ外来語としての重要な問題を含んでいることは確かなので、今後の議論の中で論点を整理しておく必要がある。

第4回の語彙選定の基本方針の一つとして、1回から4回の総集編を作ることに配慮した語彙選定を行うことにしたい。

以上